

○単元(題材)名

高等学校学習指導要領(保健体育編)解説における領域、内容を記述する。
(例)「E 球技 サッカー」

○単元の目標

学習指導要領で示された各教科等の内容を基に、単元を通して育成を目指す資質・能力を記述する。

○生徒の実態

本単元の目標との関わりから、実態を簡潔に記述する。

「～ができない。」といった否定的な記述のみは避ける。生徒の実態を肯定的に捉え、「～については理解している。～はできる。」のように、プラス面を記載する。

(様式1)

○○○○科「○○(科目名)」 ← 学習指導案
単元(題材)名「○○(○○○○)」

令和8年○月○日(○)校時(○○:○○~○○:○○)
対象クラス ○○科○年○組(○○コース) ○○名
授業者 群馬県立○○高等学校 教諭 ○○○○
授業場所 ○○○○

I 単元(題材)構想

1 単元(題材)観

×~~~~~
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

2 単元(題材)の目標及び生徒の実態

|              | 【単元の目標】 | 【生徒の実態】 |
|--------------|---------|---------|
| 知識及び技能       | ~~~~~   | ~~~~~   |
| 思考力、判断力、表現力等 | ~~~~~   | ~~~~~   |
| 学びに向かう力、人間性等 | ~~~~~   | ~~~~~   |

※学習指導要領を参考にすること。  
文末(知技)「~ができるようにする」  
(思判表)「~ができるようにする」  
(学向力、人)「~ができるようにする」

3 単元(題材)の評価規準

|               |                  |
|---------------|------------------|
| 知識・技能         | ①~~~~~<br>②~~~~~ |
| 思考・判断・表現      | ①~<br>②~         |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ①~<br>②~         |

※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料を参考にすること。  
文末(知)「~している」(技)の場合は「~ができる」  
(思判表)「~している」  
(学向力、人)「~しようとしている」健康安全「~している」

(例)

保健体育科(体育or保健) 学習指導案

○単元観

- ①単元・題材の説明(特性)とその本質的な価値や意義
- ②選定した根拠や単元・題材に対する教師の考え(身に付けさせたい資質、能力)
- ③その単元・題材を扱うことにより期待される学習効果(生徒にとってどのような価値があるのか)などを記述する。

○単元の評価規準

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(国立教育政策研究所)を参考にし、作成をする。その際、「内容のまとめりごとの評価規準」から、各単元におけるバランスや実施する単元の内容と照らし合わせ、各観点の評価規準を選択する。  
3観点それぞれについては、単元(題材)の目標が達成されていると判断できる生徒の状況を記述する。(学習指導要領記載の例示を参考にしてもよい)

**○主な学習活動(概要)**  
 ・「生徒が主語」として行う主な学習活動を簡潔に記述する。  
 【例】(生徒が)〜〜〜ために、〜〜〜する。」  
 ・1つの単元を通じて【自己決定】【対話・交流】【試行錯誤】それぞれの学習場面を設定する。

**○ねらい(目標)**  
 参観者が「ねらい」を見ただけで、本時の主たる学習活動や目標をイメージできるように記述する。  
 【例】「〜(中心的な学習活動、手立て)を通して、◇◇◇(本時で目指す資質能力)ができるようにする。」等

(様式1)  
 4 単元の指導と評価の計画 (全○時間、本時は第○次の第○時間目)

| 次            | 【主な学習活動(概要)】                                                                        | 評価規準 |   |   |   | 評価項目<br><評価方法>           |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------|------|---|---|---|--------------------------|
|              |                                                                                     | 知    | 技 | 思 | 態 |                          |
| 第1次<br>(○時間) | 1 ~~~<br>2 ~を知るために、~~~をする。<br>【自己決定】<br>3 ~~~を理解するために、~~~をまとめる。<br>【対話・交流】<br>4 ~~~ |      |   |   |   | ~~~~~<br>~~~~~<br><○○○○> |
| 第2次<br>(○時間) | 1 前時の内容を振り返る。<br>2 ~~~<br>3 ~~~<br>4 ~~~<br>【試行錯誤】                                  |      |   |   |   |                          |
| 第3次<br>( 時間) |                                                                                     |      |   |   |   |                          |
| 第4次<br>( 時間) |                                                                                     |      |   |   |   |                          |

II 本時の学習  
 1 主題(指導内容)  
 「○○(○○○○)」  
 2 ねらい(目標)  
 ・ ~~~~~  
 ・ ~~~~~  
 3 本時の評価規準  
 (例) 思考・判断・表現 ・~~~~~

**○評価規準**  
 単元の評価規準に照らし、各単位時間の評価の観点を絞り込んで位置付ける。その際、「知識を習得した上で、技能を身に付ける」「知識や技能を活用して、思考力・判断力・表現力を身に付ける」など、指導と評価の関連を図り、1単位時間の評価項目は1~2つにする。  
 全単元を通して、3観点の評価規準をバランスよく配置する。  
 (注)体育・保健体育科(運動領域)においては、毎時間の形成的評価の積み重ねの結果、単元の最後に、記録に残す「総括的評価」を行うことから、「**評価に用いる評価**」は設定しない。  
**○評価項目<評価方法>**  
 →「どのような活動からどのような姿を評価するのか」を評価基準を踏まえて記述する。また、評価方法も記述する。(例) <ワークシート、観察など>

**○本時の評価規準**  
 単元計画から、本時で設定している評価規準を記述する。複数設定している場合は、枠を増やし、記述する。  
 (※「4 単元の指導と評価の計画」と照らし合わせ、設定した評価規準を記載する。)

○学習内容と学習活動

生徒が行う学習活動を記載する。具体的かつ簡潔に記述する。  
どの場面で【自己決定】【対話・交流】【試行錯誤】なのかを記述する。

(様式1)

| 4 展開      |                         | ・指導上の留意点<br>◆評価項目<評価方法(観点)>          |
|-----------|-------------------------|--------------------------------------|
| 導入<br>○分  | ・~~~~~<br>~~~~~。【○○○○○】 | ・~~~~~。                              |
| 展開①<br>○分 | ・~~~~~<br>~~~~~。        | ◆~~~~~<br>~~~~~。<br><(例)ワークシート(思判表)> |
| 展開②<br>○分 | ・~~~~~<br>~~~~~。【○○○○○】 | ◆~~~~~<br>~~~~~。<br><○○○○( )>        |
| まとめ<br>○分 | ・~~~~~<br>~~~~~。【○○○○○】 | ・~~~~~。                              |

○指導上の留意点

【例】「(生徒が)~~~するために、(教師が)★★★する。」と記述する。

・基本的に「手立て」について、具体的に記述する。 ※下記参考

【例】直接的な働きかけ  
「問いかけ(発問)」「ゆさぶる」「助言」「促す」「考えの取り上げ方やつなぎ方」「称賛する」等

【例】環境の工夫  
「グループ編成」「場の設定」「ICTの活用」「教材教具(プリント等)」「目標、学習計画、視点の提示」等  
※「どのように」「どのような」を具体的に。

・環境の構成に関わる「場の設定」や「教具」などを具体的に記述しにくい場合は、文末に【別紙参照】などと示し、資料として画像や図を添付すること。

○評価項目<評価方法>

→「どのような活動からどのような姿を評価するのか」を評価基準を踏まえて記載する。また、評価方法を記述する。  
(例) <ワークシート、観察など>

(基本書式)  
フォントサイズ・・・大\_10.5 小\_9.0  
書体・・・MS明朝